

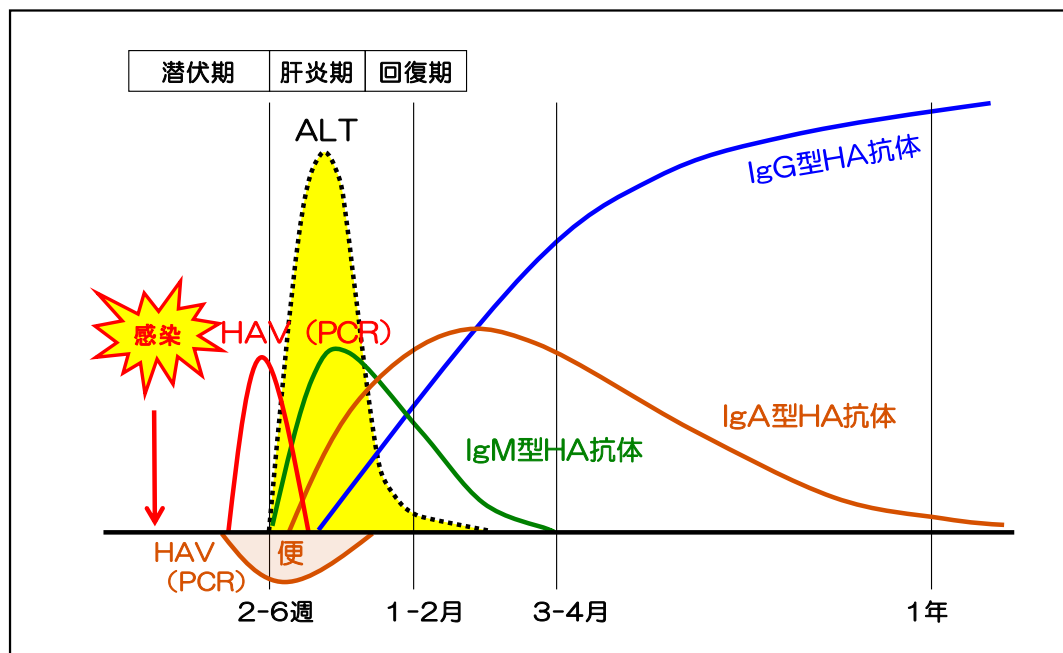
概説 1 A型肝炎ウイルス (HAV)

A型肝炎ウイルス基礎的事項

病原体 ; Hepatitis A virus (RNA ウィルス)
宿主 ; ヒト, チンパンジー
感染経路 ; 経口感染, 経皮感染 (感染期血液のみ)
潜伏期 ; 2 ~ 6週
症状 ; 発熱, 全身倦怠, 食欲不振, 悪心・嘔吐, 黄疸などの一過性急性肝炎症状
希に劇症化 (1% : 致死率 0.4%)
小児の不顕性感染は 80~95%
成人の不顕性感染は 10~25%

A型肝炎ウイルス関連検査

A型肝炎ウイルス感染時における各種血清マーカーの推移を以下の図に示します。



HAV 急性感染症における血清関連マーカーの推移

1. HAV 抗体検査

a) 目的と方法

HAV 抗体には IgM 型, IgA 型, IgG 型が存在し, 感染後最も早期に産生される抗体は IgM 型 HAV 抗体で, 次いで IgA 型, IgG 型の順に産生されます。これらの抗体を検出する検査法としては, IgM 型 HAV 抗体および HAV 抗体検査法があり, IgM 型 HAV 抗体検査は主に現在の感染を知るための指標として用いられ, HAV 抗体検査法は IgM 型, IgA 型およ

び IgG 型抗体のすべての HAV 抗体を検出することから、過去の感染や HB ワクチン接種後における抗体獲得の有無を鑑別するための指標として用いられています。

検出原理は、化学発光免疫測定法（CLIA）化学発光酵素免疫測定法（CLEIA）や酵素免疫測定法（EIA）等が用いられています。

b) 検査結果の見方【基準値；陰性】

① IgM 型 HAV 抗体

肝炎発症と同時あるいは 1 週間以内に陽性化し、治癒後も数ヶ月持続します。このことから、陽性は現在あるいは最近の感染を意味しており、HAV 感染症の診断法として最も広く用いられています。

② HAV 抗体検査

IgM 型 HAV 抗体検査と同時期に陽性化しますが、感染既往抗体も検出することから、感受性者の判別や、ワクチン接種効果の判定などに用いられています。

c) 検査における注意点

検査法により反応性が異なります。さらに、同一原理であっても試薬によって判定結果および測定数値が異なります。このため、測定値を用いた病態の経過観察には、同一試薬を用いる事が必須となります。

d) その他：

A 型肝炎は四類感染症に分類され、診断後直ちに届け出る必要があります。

2. HAV-RNA 検査

HAV-RNA 検査は血中および便中の HAV を直接反映する最も信頼性の高い方法です。しかし、確立された測定法が無いことに加え、キット化された検査試薬が無いことや保険適用が認められていないことから、日常検査法としては普及していないのが現状です。